

日医工医療行政情報

<https://stu-ge.nichiiko.co.jp/>

MDC別施設間比較（3年推移）

（令和2年度実績：DPC対象病院・準備病院）

解説資料

作成：日医工株式会社（公社）日本医業経営コンサルタント協会認定 登録番号第4310号 山岸義彦
編集：日医工株式会社（公社）日本医業経営コンサルタント協会認定 登録番号第6345号 寺坂裕美

資料No.20220620-1208(00)

本資料は、令和4年3月23日の情報に基づき、日医工（株）が編集したのですが、その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます

本資料の出典は、下記URLの「1 - (14) 在院日数の平均の差_MDC別」から抽出しています。

- ・**令和2年度**：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00005.html
- ・**令和元年度**：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00004.html
- ・**平成30年度**：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000196043_00003.html

＜MDC別施設間比較＞ に関して

- ・データの出典元：1 - (14) 在院日数の平均の差_MDC別（平成30年度、令和元年度、令和2年度）
- ・集計対象病院：令和2年度のDPC対象病院および準備病院。

＜グラフ説明＞

- ・施設名の頭の㊸㊹㊺㊻は、令和2年度の大学病院本院群、特定病院群、標準病院群、準備病院を示しています。
- ・グラフの縦軸（件数）は、他の都道府県と比較するため最高値をMDC毎に、原則固定しています。
- ・縦軸を固定しているため、最高値を超えている施設※がある場合は、その医療機関が所在する都道府県の縦軸（件数）の最高値を変更しています。（※10施設未満）
- ・グラフの作成にあたり、名称は、大変失礼なことですが、独自で省略（10文字以内）させていただきました。
- ・医療機関の表示順は、二次医療圏（北海道は三次医療圏）又はグループごとに令和2年度の実績件数の多い順で掲載し、令和2年度の実績が10件未満の施設は掲載していません。

(患者数)

MDC06 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患

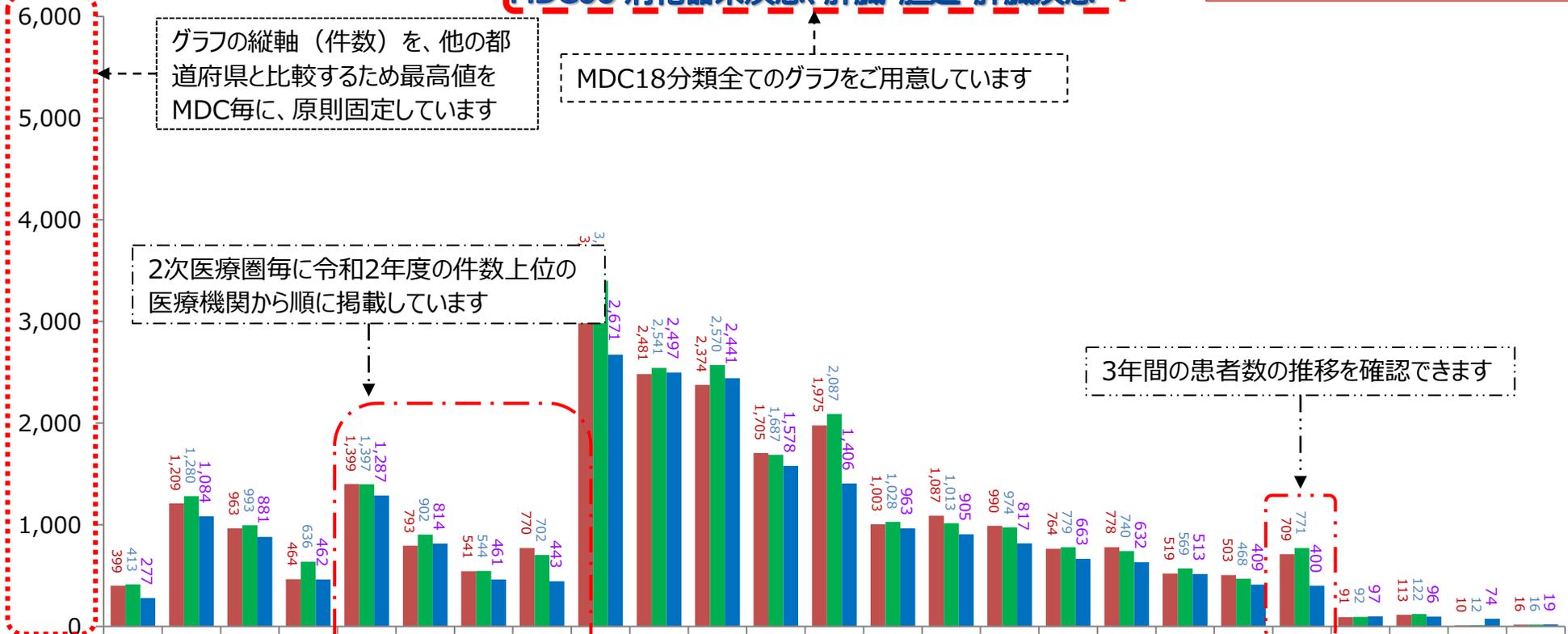
■平成30年度 ■令和元年度 ■令和2年度

グラフの縦軸（件数）を、他の都道府県と比較するため最高値をMDC毎に、原則固定しています

MDC18分類全てのグラフをご用意しています

2次医療圏毎に令和2年度の件数上位の医療機関から順に掲載しています

3年間の患者数の推移を確認できます



A医療圏 B医療圏 C医療圏 D医療圏

MDC別施設間比較（3年推移）資料のポイント

MDC18分類毎に、平成30年度～令和元年の3年間の退院患者数を棒グラフで表記しています。

3年間の退院患者数の推移を棒グラフにて表記することで、経時的な変化を確認することができます。

それぞれの病院における退院患者数はMDC分類別に2次医療圏毎に編集し、令和2年度の患者数が多い順に病院名を記載しているため、エリアごとで他院との比較ができます。

退院患者数の軸（左軸）の最大値を都道府県資料で統一して設定することにより、大学病院や単価専門病院では、全国での立ち位置を確認することができます。（一部、外れ値を除外しています）

こちらの資料は、日医工にてDPC評価分科会が公開したデータを基に、エリアごとに掲載しています。病院名を掲載しているため、Stu-GEサイト内ではダウンロード用資料は掲載しておりません。もし、ご興味いただきましたら、担当MRにご請求いただくか、Stu-GEサイト最下にあります「お問い合わせ」をクリックいただき、[「お問い合わせフォーム」](#)より資料をご請求ください。日医工MRが資料をお届けいたします。



「お問い合わせフォーム記入例」

お問い合わせ内容：「厚労省・厚生局データのご請求」を選択

資料の対象都道府県：「〇〇県」

お問い合わせ本文：「1208 MDC別施設間比較（3年推移）」